



2021年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるパンデミックが世界に未曾有の被害をもたらしただけでなく、気候変動による影響が多くの分野で一層顕在化しました。これらに伴い、2050年のカーボンニュートラルや2030年の排出削減目標の実現に向けた経済・社会活動の変化、国際的なサプライチェーンの混乱など、国際秩序も変わりつつあります。

一方、日本はCOVID-19への対応において、関連する論文数が世界16位にとどまるなど、科学技術・イノベーション分野において国際社会に十分な存在感を示したとはいえない状況です。加えて、デジタル化の遅れや社会的孤立など、さまざまな社会課題が浮き彫りになりました。

新たな秩序への対応を迫られる今、全ての人の^{ウェル ビーイング}Well-Beingを実現するとともに、日本が将来にわたって世界の科学技術をリードし、未来のためのイノベーションを創出すべく、JSTとして全力を尽くす所存です。従来のプログラムの充実、さらには日本の喫緊の課題である若手・女性研究者の活躍促進にも引き続き注力してまいります。

「ムーンショット型研究開発事業」では、若手を中心とした

チームによる新たな目標のアイデアを具体化・精緻化する調査研究、通称ミレニア・プログラムを推進し、その中から2件が国の定める新たなムーンショット目標として採択されました。現在公募を行っており、本年より研究開発を開始します。若手研究者の挑戦的研究を支援する「創発的研究支援事業」、博士後期学生による挑戦的・融合的な研究開発を推進・支援する「次世代研究者挑戦的研究プログラム」についても引き続き、取り組みの充実を図ります。

若手女性研究者の活躍促進に向け、2019年に設立しました「輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)」に続き、昨年新たに「羽ばたく女性研究者賞(マリア・スクウォドフスカ=キュリー賞)」を創設いたしました。また、世界最高水準の研究大学を形成するための「大学ファンド」については、長期的・安定的な大学への支援に向け、本年よりその運用を開始する予定です。

JSTは科学技術・イノベーション基本計画の中核的な役割を担う機関として、これからも新たな挑戦を続けてまいります。皆様の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和4年1月

徳田道成